

## JICAボランティアに参加するには?

### 話を聞きに行こう!

毎年、春と秋の募集時期に合わせて、全国で「体験談&説明会」を実施。JICA職員やJICAボランティア経験者があなたの疑問や不安を解消してくれる。



### 応募書類を提出しよう!

応募に必要な書類は、「体験談&説明会」、JICAのホームページ(www.jica.go.jp/volunteer/)、JICAの国内機関などで入手可能。書類選考、面接試験などを経て、合格者を決定。

### 派遣前の準備はしっかりと!

合格通知を受け取ったその瞬間から、あなたはJICAボランティア。JICA二本松訓練所(福島県)、JICA駒ヶ根訓練所(長野県)で活動に必要な語学や生活のノウハウ、国際協力の知識について、約2カ月間みっちり学ぶ。その他にも、実践的な技術の習得に向けて「技術補完研修」が行われることもある。



### いざ現地へ!

準備ができたら、あとは派遣国に向かうだけ。現地のJICA事務所でオリエンテーション、語学訓練を受けて配属先に向かう。活動や生活で困っても、JICA職員や先輩ボランティアが相談に乗ってくれる。

### 次に進む道を考えよう!

帰国後は、東京で研修を受けてからそれぞれの道へ。プロのカウンセラーによる進路相談、JICAボランティア経験者向けの就職情報の提供などのサポートも手厚い。

この49年間で  
途上国に飛び立った  
JICAボランティアは、

**96カ国**  
**約4万6,000人!**



## 特集 JICAボランティア

# 私と世界をつなぐ道

開発途上国で現地の課題解決に向けて奮闘する日々。自分にはとてできない...と、立ち止まっている人はいないだろうか。JICAボランティアの参加方法はさまざま。勇気を出して、一歩を踏み出してみよう。

## まずは調べてみよう! あなたはどのタイプ?

20~39歳の方は /

### 青年海外協力隊



© Kenshiro Imamura

**受入国** 約80カ国(アジア、アフリカ、中南米、大洋州、中東)

**協力分野** 計画行政、公共・公益事業、農林水産、鉱工業、エネルギー、商業・観光、人的資源、保健・医療、社会福祉

**職種** 小学校教育、コミュニティー開発、看護師、スポーツ、環境教育など120種類以上

**期間** 原則2年

→ 活動事例は8ページ、12ページへ

40~69歳の方は /

### シニア海外ボランティア



© Satoshi Takahashi

**受入国** 約50カ国(アジア、アフリカ、中南米、大洋州、中東)

**協力分野** 計画行政、公共・公益事業、農林水産、鉱工業、エネルギー、商業・観光、人的資源、保健・医療、社会福祉

**職種** 行政サービス、品質管理、電気通信、マーケティングなど100種類以上

**期間** 原則2年

→ 活動事例は14ページへ

中南米の日系社会に興味のある方は /

### 日系社会青年ボランティア



© Koji Sato

### 日系社会シニア・ボランティア

**受入国** 約9カ国

**協力分野** 人的資源、保健・医療、農林水産、社会福祉など

**職種** 日本語教育、青少年活動、ソーシャルワーカー、小学校教育など

**期間** 原則2年

→ 活動事例は4ページへ

2年間はちょっと長いという方に...

### 短期ボランティア

日本を長く離れるのが難しくても、1年未満で参加できる制度もある。受入国、協力分野、職種は、青年海外協力隊、シニア海外ボランティアと同じ。

社会人にも参加のチャンスが...

### 現職参加

帰国後も今の職場で経験を生かしたいなら、所属先に身分を残したまま参加してみても?所属する企業、自治体、学校などに、休職・休暇などの扱いが可能か問い合わせよう。



from ラオス  
トンシン・  
タンマヴォン首相

- ラオスに初めて青年海外協力隊が派遣されたのは1965年。今から49年前にさかのぼります。
- 私たちの国には“共に生活し、同じものを食べ、共に転び、共に幸せを感じ、共に困難を克服する”という意味の「kingkeuklyleua」という言葉があります。JICAボランティアの皆さんの活躍を見て、私はこの言葉を思い出しました。
- 日本とは全く環境の違う国で活動を続けることは、相当の努力がないと達成することができないでしょう。日本人はいつも真面目で一生涯懸命です。創

- 意工夫を重ね、研究し、アイデアを生み出す能力があり、そんな彼らの姿から私たちは多くのことを学んできました。異なる文化、習慣を理解しながら貢献してきたJICAボランティアの皆さんに、お礼を申し上げます。
- ラオスの国づくりを担う人材を育成していく上で、JICAボランティアの皆さんはなくてはならない存在です。今後も多くの方が日本からこの地を訪れ、国民と共に幸せを分かち合い、困難を乗り越えていられることを願っています。